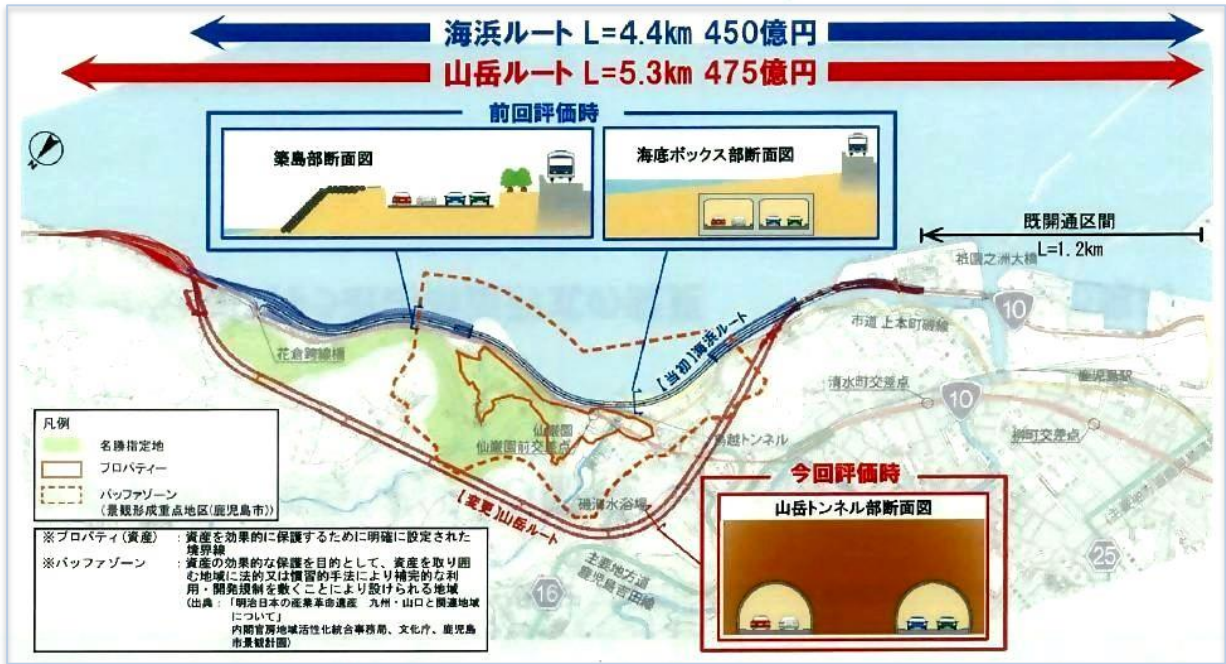


国道10号交通混雑緩和などで「鹿児島北バイパス」・「白浜拡幅」事業

鹿児島北B P山岳ルートに変更し、約2.8kmのトンネル等約475億円

【当初】海浜ルート：国道10号の沖合を海底ボックスで通過するルート
 【変更】山岳ルート：国道10号の山地部を山岳トンネルで通過するルート



国道10号鹿児島北バイパスルート案

国交省九州地方整備局は国道10号の交通混雑の緩和や交通安全性の向上などを目的に「国道10号白浜拡幅」と「国道10号鹿児島北バイパス」事業を進めているが、先の事業評価監視委員会で「鹿児島北バイパス」のルート案については、津波発生時のリスクを回避するために山岳ルート（吉野町花倉～祇園之洲間ルート延長4.1km）に変更することで事業費約25億円増（総事業費約475億円）、「白浜拡幅」の事業費変更は①護岸構造見直し（約53億円）と②地層の変化に伴う護岸基礎変更（約10億円）によって、約63億円を増額するなどの対応方針案が提示された。

「国道10号鹿児島北バイパス」は、これまでに延長約5.3kmのうち0.3kmが完成4車線、0.9kmが暫定2車線で開通している。祇園之洲地区以北のルート計画については、学識経験者や有識者で構成された「鹿児島北バイパスルート検討委員会」を設置（平成27年1月～3月）、その審議結果を受けて、津波発生時のリスクを回避するために海浜ルートから山岳ルートに変更し、平成27年12月に都市計画の変更を行った。ルート変更に伴う事業費の変更は道路構造形式の変更に伴う約25億円増で、総事業費約475億円が見込まれている。

残事業費にトンネル・橋梁など約384億円

対応方針案によると、事業進捗率（平成26年度末）は、約19%（約90億円/約475億円）であり、用地進捗率が約93%。残事業費（延長5km）は総額383億5,900万円で、主な工事に①トンネル（NATM2, 820m）267億5,400万円、②橋梁100m以上（連続高架橋2橋335m）31億6,400万円、③橋梁100m未満（鋼橋3橋136m）18億7,700万円、④改良費の擁壁工（重力式擁壁、U型擁壁、L型擁壁、護岸、補強土壁等）39億2,200万円、⑤改良費の土工（切土2万3,863m³、盛土一流用土15万8,734m³、捨土工34万9,632m³）8億4,000万円、⑥舗装工（車道6万9,877m²、歩道3,901m²）1億9,100万円、⑦交通管理施設工（標識工、防護柵工、道路照明等）3億1,000万円などのほか、地質調査・測量、設計費用や予備費として約8億6,400万円などが見込まれている。

白浜拡幅の残事業費約107億円で、護岸工、土工、橋梁工など

「国道10号白浜拡幅」（鹿児島市吉野町字上ノ村～始良市脇元）は、延長7.3kmのうち、鹿児島市側0.3kmが平成27年度に完成予定で、始良側の延長3.4kmが未整備区間となっている。今回の事業費変更は①平成24年7月版の擁壁工指針に準拠し、1mあたり50m³基礎を置換、大規模地震時の転倒・滑動を抑制するために、護岸構造の見直しに伴う事業費増53億円、②一部区間で液状化層が厚く堆積し、かつ支持層が深いことが判明したために、護岸杭基礎変更に伴う事業費増約10億円となっている。

対応方針案によると、平成26年度末の事業進捗率は約7%（約8億円/約120億円）で、今年度中に0.3kmが完成予定。残事業費（3.4km）は、総額106億8,600万円で、主な工事として①改良費の護岸工（L2, 057m）63億2,700万円、②改良費の土工（切土3,256m³、盛土10万8,054m³、床堀14万3,318m³、埋戻し1,013m³、土砂運搬14万3,318m³）10億500万円、③改良費の擁壁工（補強土壁、コンクリート擁壁）5億2,400万円、④橋梁費（100m未満180m）5億8,800万円、⑤舗装工（車道2万2,700m²、歩道1万1,618m²）4億7,900万円等のほか、地質調査、測量、設計費及び予備費13億3,700万円などが見込まれている。